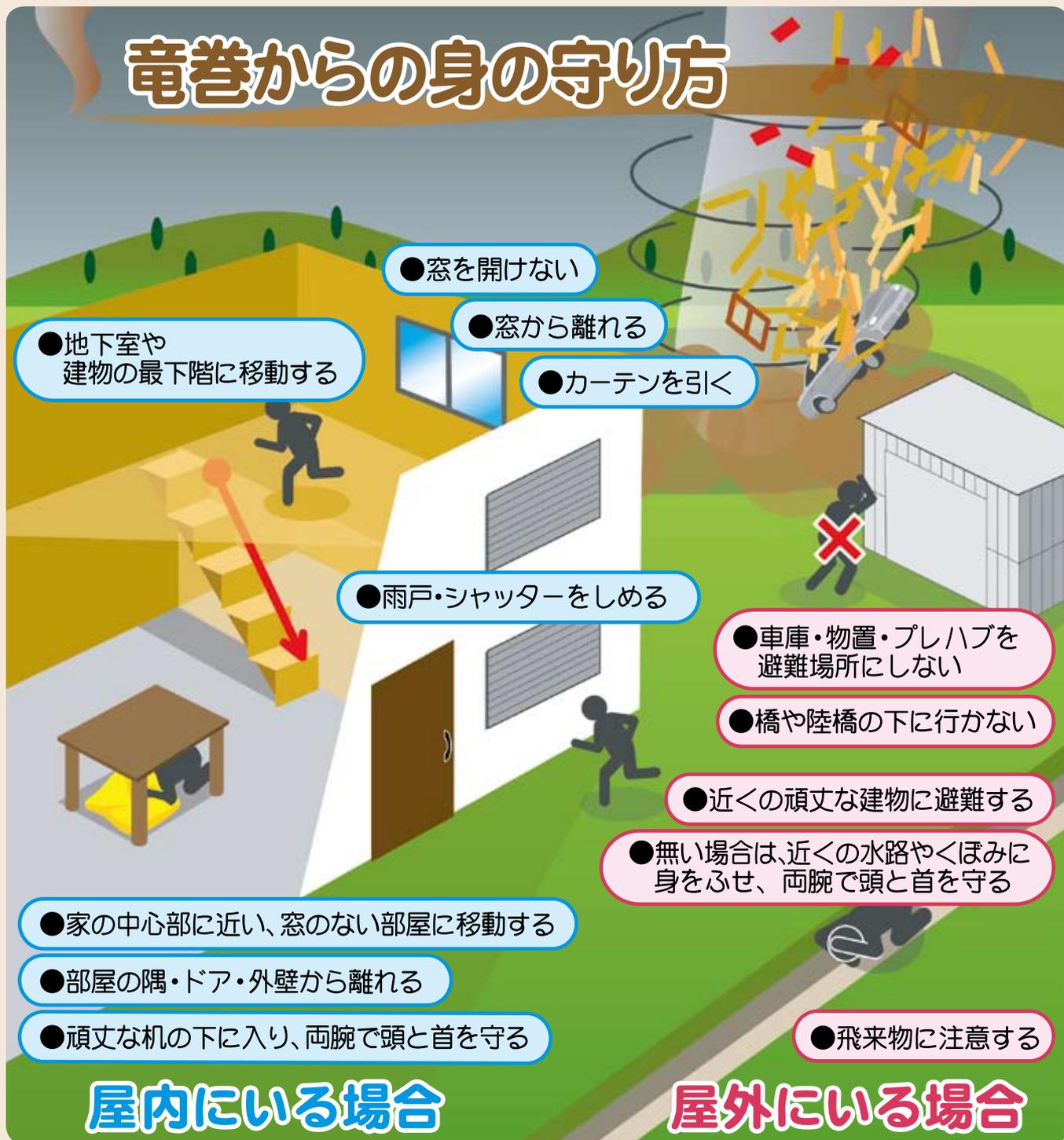


竜巻からの身の守り方



- 地下室や建物の最下階に移動する
- 窓を開けない
- 窓から離れる
- カーテンを引く
- 雨戸・シャッターをしめる
- 車庫・物置・プレハブを避難場所にしない
- 橋や陸橋の下に行かない
- 近くの頑丈な建物に避難する
- 無い場合は、近くの水路やくぼみに身をふせ、両腕で頭と首を守る
- 家の中心部に近い、窓のない部屋に移動する
- 部屋の隅・ドア・外壁から離れる
- 頑丈な机の下に入り、両腕で頭と首を守る
- 飛来物に注意する

屋内にいる場合

屋外にいる場合

登録料無料

通信費は各自負担

「かさめ〜る」の登録を!

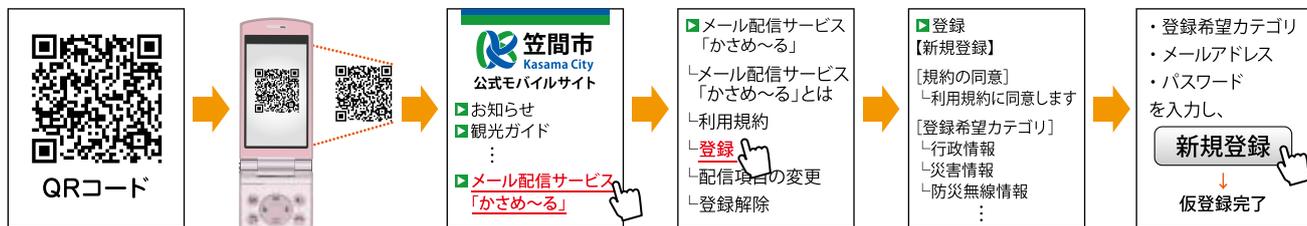
気象警報、土砂災害警戒情報や竜巻注意情報などの災害に関する情報は、メールアドレスを登録することにより、携帯電話やインターネットに接続されたパソコンにメール配信されます。

【配信する情報】 行政情報・災害情報・防災無線情報・観光情報・火災情報・不審者情報・放射線情報

(登録方法) ■ パソコンから登録 <http://www.city.kasama.lg.jp/dir.php?code=1232>

■ 携帯電話から登録 <http://www.city.kasama.lg.jp/mobile.php>

QRコード(2次元バーコード)よりメールアドレスを登録できます。



土砂災害・風水害に備えましょう

これからの時期は、台風や雷雨、梅雨期の長雨や大雨により、危険度が高まり、風水害や土砂災害が発生するおそれがあります。

特に、東日本大震災により、地下の深いところまで地盤が緩んでいるおそれがあるため、今までより少ない雨量でも土砂災害が発生することが懸念されます。

また、先月には、県内においても竜巻の発生により、大きな被害を受けた地域があります。

風水害や土砂災害による被害を最小限に食い止めるには、日ごろから気象情報に注意するとともに、家の周りの危険箇所を確認したり、非常持出し品を準備したりするなど、事前に効果的な備えしておくことが大切です。

避難場所は事前に確認を！

風水害や土砂災害の発生時に安全に避難するためには、避難所の位置や避難所までの経路を事前に確認しておくことが重要です。また、洪水やがけ崩れが予測される危険箇所を普段から把握しましょう。

自宅の窓や屋根、雨どい、自宅周りの側溝などを再点検し、修理や清掃などが必要な場合には、早めに対処しておきましょう。被災時に家族が離れている場合を想定し、安全確認の方法を話し合っておくことも大切です。



非常時の準備と早めの避難を！

貴重品・衣類・非常食・携帯用ラジオ・懐中電灯・電池など、必要最小限の荷物をいつでも持ち出せるよう準備しておきましょう。

がけ崩れや土石流の恐れが高まったときは、テレビやラジオの警戒情報や、市役所、消防、警察などからの情報に注意しましょう。

また、雨量の変化や河川・斜面・がけなどの状況の変化にも気を配り、危険を感じたときは早めに避難するよう心掛けてください。



竜巻など突風にご注意を！

竜巻などの発生が予想される際には、気象庁から竜巻注意情報が発表されます。

竜巻注意情報が発表された場合には、まず周囲の空の状況に注意を払ってください。さらに、空が急に真っ暗になる、大粒の雨が降り出す、雷が起こる、ひょうが降るなど、積乱雲が近づく兆候が確認された場合には、頑丈な建物に避難するなど身の安全を確保するよう心掛けてください。

市では、自主防災組織の結成を推進しています。

災害はいつ起こるかわかりません。「自分の身は自分で守る」という「自助」と、「自分たちの地域は自分たちで守る」という「共助」が災害から被害を軽減するために大切です。これら地域ぐるみで防災活動に取り組む組織として「自主防災組織」があります。

まだ「自主防災組織」のない地域では、これを契機に家族や地域ぐるみで話し合い、いざというとき円滑に行動できるよう「自主防災組織」を結成し、地域の防災力向上に取り組みましょう。

「自主防災組織」の結成については、本年度まで補助制度の拡充を行っていますので、お気軽にご相談ください。



【問合せ】総務課危機管理室（内線205・206）